

# 基本施策評価シート

基本施策最終評価

B

基本施策通し番号 21

基本施策 雪に強いまちづくり

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	雪に強い道路づくり	B
施策2	雪に強いまちづくりの推進	C

## 成果指標

指標	内容	平成32年度 目標	平成30年度末 実績	単位	平成30年度の成果の検証
流雪溝の整備	流雪溝の整備延長距離数	88,000	87,732	m	月美有明線他1路線の整備により、流雪溝の整備拡大を図り、除雪作業の利便性が図られた。
降雪期前の雪下ろし作業登録者数	降雪期前の屋根雪下ろし作業登録者数	200	136	人	雪が少なかったため、登録者の要望が少なく目標を達成できていない。

## 後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現 状	降積雪期における快適な市民生活と円滑な道路交通を確保するため、除雪車や流雪溝の整備、地域ぐるみによる屋根雪下ろしの推進など、雪に強いまちづくりに取り組んできた。
課 題	高齢化、核家族化の進行による高齢者世帯や、市街地の空洞化による空き家が増加しており、これらの除排雪対策のため、地域ぐるみの助け合いによる除雪や、地域で計画的な流雪溝の利用が必要とされている。また、除雪の迅速化や歩行者への安全確保も求められている。

## 社会情勢・市民ニーズの変化

高齢化により、雪おろしや雪処理に困っている市民が増えている。あわせて除雪車のオペレータが高齢化してきている。市民が手軽で円滑に除雪作業が行える流雪溝の整備が望まれている。

## 現在の「現状」と「課題」

現 状	・水利権の関係で市街地の流雪溝に必要な水量をこれ以上真名川から取水することが困難であり、物理的に流雪溝の水量を増やすことができない。 ・除雪車のオペレータが高齢化してきている。
課 題	屋根雪下ろし作業員の高齢化が進んでいると同時に新規登録も進んでいないことや、高齢化による将来的な除雪車のオペレータ不足が懸念されるため、新たな除雪作業の担い手の確保が課題となっている。

## 基本施策の「成果」

成 果	・小型ロータリ除雪車1台を更新し、市直営路線の除雪体制を維持できている。 ・直営路線以外を業者に委託し、冬期交通の確保はできた。
-----	---

## 改善点

高齢化社会を迎え、除雪体制の維持改善に努めるとともに、平成30年豪雪で効果的に機能した屋根雪下ろし作業員登録制度について、作業員登録の必要性を広く啓発し、屋根雪下ろし作業員の更なる確保に努める必要がある。